



# JP250 4時間耐久ロードレース

## ■開催概要

- 大会名称 : 2024 JP250 4時間耐久ロードレース
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 開催場所 : 鈴鹿サーキットフルコース (5.821km)
- 参加台数 : 総参加台数/64台  
インター4hours ..... 20台  
ナショナル4hours ..... 44台
- 開催日 : 11月23日(土/祝) / 公式予選、11月24日(日) / 決勝レース
- 天候/路面 : 晴れ/ドライ (23日/24日)



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/)



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで  
ご購入いただけます。  
<http://www.battle.co.jp/>



全63台が決勝レースに出走。4時間後の栄光を目指してル・マン式スタートから1コーナーへと突入していく



# JP250 4時間耐久ロードレース

## エンジョイ派から勝ちを狙うチームまで 幅広いエントラントが最後のJP250 4耐を楽しんだ。

JP250は昨今人気を集めている小排気量4ストロークエンジンを搭載する市販車ベースのマシンによって争われている入門カテゴリー。次世代のスプリントレースとして2016年にクラス設定された当初より多くの参戦台数を集め、現在ではすっかり人気カテゴリーとして定着している。開催初年度の2016年には「アジアドリームエンデュランスレース」の名で2時間耐久ロードレースが開催され、翌2017年からは4時間耐久ロードレースがスタート。そのJP250 4耐の2024年シーズン大会が11月23日(土)・24日(日)の両日に渡って開催された。

レースは例年通り、「インター4hours」と「ナショナル4hours」の2クラス混走によって行われた。今回はレースを楽しむことをモットーとするFUN & RUN! 2-Wheelsの参戦者、ステップアップを狙う鈴鹿サンデー参戦者、MFJカップJP250選手権で活躍するライダーたちに加え、全日本J-GP3チャンピオン獲得後はARRCアジア選手権、世界選手権Moto3、MotoE、WSSなど様々な選手権やカテゴリーを経て、現在はEWC世界耐久選手権レギュラーライダーとして活躍している大久保光選手も参戦。プロからベテランのみならず、アマチュアから初心者まで幅広い層のライダーたちがこの4耐を楽しんだ。マシンはJP250という小排気量4ストロークエンジン搭載車であり、改造範囲が厳しく制限されている。ダンロップのワンメイクタイヤ制の下でイコールコンディションが管理されることに加え、タイヤの本数制限により、タイヤマネジメント能力も試される。スタートはル・マン式でレース中のアクシデントではセーフティカーも介入する文字通り本格的な“耐久レース”だ。参加者も楽しくないわけがない。

なお、鈴鹿8時間耐久ロードレースを頂点とする鈴鹿サーキットの耐久レースピラミッドのボトムレンジを担い、アジアからの参戦も受け入れてきたこのJP250 4耐も今年が開催最終年。長年ご参加いただいた皆様に深く感謝申し上げます。



決勝レース日のウォームアップ走行後にはエントラントやチーム関係者がメインストレートに並び、集合写真撮影が行われた



# JP250 4時間耐久ロードレース

## 公式予選レポート

11月23日(土)にはRider Blue、Rider Yellowともに15分間ずつタイムアタックを行う公式予選が開催された。

午前に行われたRider Blueの予選ではアタック開始直後に鈴木大空翔(#33 M-support三木物流/植月永久組)がタイミングボードのトップに。鈴木はアタック2周目に2分30秒927をマークする。それを大久保光(#11 TEAM TEC2 & YSS/中村龍之介組)が上回るが、すぐに鈴木がトップを奪い返すという激しいもの。大久保の次には前田誠司(#4 HITMAN RC甲子園ヤマハ+keizy38/中村敬司組)の前田が続く。鈴木が一旦ピットにマシンを入れるが、すぐにコースに復帰。その後も鈴木はトップタイムをキープする。結局、鈴木の2分29秒401がRider Blueのトップタイムとなった。それに大久保の2分29秒481、前田の2分32秒295と続いた。

また、午後に行われたRider Yellowの予選ではアタック開始1周目に山中将基(#22 SHIN RIDING SERVICE&備前精機/土岩直人組)が2分30秒626をマークしてタイミングボードのトップに。それに岩田凌吾(#17 Technical Garage PLUS MOTO/辻本範行組)、荻原鈴大(#97 Vesrah Racing TEC.2 & YSS/福田たかお組)と続く。荻原が2分28秒798をマークしてコースレコードを更新、Rider Yellowのトップタイムとなった。それに2分29秒439の山中、2分30秒327の岩田と続いた。

グリッドはRider BlueとRider Yellowがマークしたベストラップタイムのアベレージによって決まる。今回は#97 Vesrah Racing TEC.2 & YSS(福田/荻原組)がポールポジションを獲得することになった。この予選で決まったグリッドにより、11月24日(日)の11時30分に4時間におよぶ決勝レースの火蓋が切って落とされる。



福田たかお(右)/荻原鈴大組(#97 Vesrah Racing TEC.2 & YSS)がポールポジションから最後のJP250 4耐に挑むこととなった



# JP250 4時間耐久ロードレース

## 決勝レースレポート

快晴で絶好のレース日和ながら、冷たく強い風の吹く決勝日となった11月24日(日)11時30分、鈴鹿8耐と同じ時間にル・マン式によって4時間におよぶ耐久レースがスタートした。しかし、オープニングラップで多重クラッシュが発生、レースは中断となってしまふ。

12時20分、再びル・マン式スタートが行われ、鈴木(#33 M-support三木物流/植月組)、中村(#11 TEAM TEC2 & YSS/大久保組)、荻原(#97 Vesrah Racing TEC.2 & YSS/福田組)のオーダーでメインストレートに帰ってくる。デグナーカーブで転倒車両が2台あったことにより、今度はセーフティカーが介入しレースは中立化。レース再開直後のヘアピンで中村が鈴木をパスするも、鈴木がすぐにトップに返り咲く。

鈴木、中村、荻原、岩田(#17 Technical Garage PLUS MOTO/辻本組)の4台が後続を引き離すことに成功。そのトップ集団の中ではまず中村がピットイン。大久保にライダーチェンジする。代わって荻原が単独トップに。荻原はファステストラップを更新しながら独走状態を続けるが、なんとその荻原が10周目の逆バンクで転倒。鈴木と岩田の2台がテールtoノーズの状態でもトップの座を争う。若干離れて前田(#4 HITMAN RC甲子園ヤマハ+keizy38/中村組)が続く。その前田が15周目終了時点でピットに入り、中村にライダーチェンジする。後方では山中(#22 SHIN RIDING SERVICE & 備前精機/土岩組)のが2分30秒から31秒台で周回を重ね、着実に順位を回復してくる。鈴木が32周目終了時点ピットへ。それにより、全車がピットインを行ったことになる。ここで大久保がトップに。山中が2番手に浮上する。

#11 TEAM TEC2 & YSSと#22 SHIN RIDING SERVICE & 備前精機がそれぞれライダーチェンジする間、その2台は何度かトップの座を入れ替えるものの、最終的には大久保(#11 TEAM TEC2 & YSS/中村組)が真っ先にチェッカーを受け、総合優勝を飾ると同時にインター4hoursを制することとなった。ナショナル4hoursのウィナーは総合7位の三浦雄一/折川翔馬組(#36 FAST with NOJIMA & クレオネット & クレオサービス)だった。



レーススタート早々の赤旗中断、セーフティカー介入など、波乱が多かった最後のJP250 4耐。各チームが少しでも上の順位を獲得すべく、熱く激しい戦いを展開した結果だった



# JP250 4時間耐久ロードレース



インター4hours表彰式 優勝:TEAM TEC2 & YSS (大久保光/中村龍之介)、2位:SHIN RIDING SERVICE & 備前精機 (土岩直人/山中将基)、3位:M-support三木物流 (鈴木大空翔/植月永久)



ナショナル4hours表彰式 優勝:FAST with NOJIMA & クレオネット & クレオサービス (三浦雄一/折川翔馬)、2位:TEAM ATSU+speedHeart+DFR (大塚将樹/草薨伸一)、3位:攻明なTSC+TEAM長野塾 (大橋淳希/谷田典雅)



# JP250 4時間耐久ロードレース

